

## 東公民館

# 中川原「第2回ひまわり祭り」開催

中川原区長 本田 眞一



▲咲き誇るひまわりに囲まれてニジマスのつかみどり

0名の方が祭りを楽しみました。

祭りでは、子どもたちによるひまわりお絵かき大会や自然の川を使つてのニジマスのつかみどり、写真撮影会が行われました。また、バザーでは、農産物、草もち、焼そば、おでん、枝豆、ジュースなどが販売されました。

ひまわりお絵かき大会では約50名の子どもたちが思い思いにひまわりを描き、本物のひまわりに負けない元気な作品ばかりでした。

そして、健康によいひまわり油を使った料理の試食会はたいへん好評でした。ひまわり油は中川原のひまわり畑の種から作りますが、畑全体から100本(320ミリリットル入り)程度しかとれない貴重品です。

7月28日(土)中川原でコミュニティ広場を主会場に第2回ひまわり祭りが開催されました。中川原では休耕田対策の一環として、6年前からひまわりが栽培されています。これは生産組合が中心になり、子どもたちも種まきに参加しています。

今年、会場の周辺の畑約40アールに、油しぼり用、飼料用、観賞用、切花用など約1万3千本が植えられ、大輪の花が見事に咲きそろいました。暑い中、かき氷や冷たいビールで涼をとりながら、地域住民を中心に約1,000

### ▼各種バザーも大盛況



### ▼東レサウンドクレージーズによる熱演



ニジマスのつかみどり大会に参加した子どもの中には、魚をつかむのが初めての子どもも多く、怖そうにしているうちに段々と慣れ、服もずぶ濡れになりながらやつとつかまえた、大きな歓声をあげていました。

また、今年、松前湧水太鼓、三味線、東レ・サウンドクレージーズの皆さんの演奏会が開かれました。ギラギラと照りつける太陽に負けず、汗だくになりながらの熱演に、観客は手拍子でリズムを取り、大変盛り上がりしました。

「2001新世紀明るい楽しい中川原」のローガンのもと、終始にぎやかな雰囲気にも包まれ、皆さん祭りを満喫されました。

ふるさとをたずねて

## 伊予神社の椿

文化財保護審議会委員

山口 稲男

大字神崎の南西部にコンモリと茂る杜が見える。これが愛媛屈指の古社「延喜式内明神大社」で旧愛媛県社の伊予神社である。

この社には、目通り幹周6m8cmの大クスを筆頭に、5m級が3本、4m級3本とクスが多く、鬱蒼とした大木が神韻を醸している。この他にも2m級後半のイヌマキが3本、ヒチジョウ、クロガネモチなどの大木も珍しくない。

しかし、これらの大木は数年前の大干ばつ以降、年々枝幹の枯損がめだちはじめ、昨年暮れの大風にはヒチジョウの大幹が落下、お宮の屋根を直撃する災害が発生し、ついに境内末社を含めた建造物の一部は取りこわさざるを得なくなった。この工事には大型工事車の出入りが不可欠で、そのため伊予神社の象徴でもある霊泉の東部を4坪程埋め立て、更にその周辺の樹齢20年〜30年の椿4本、アラカシ5本などを別の地へ移植した。今、これらの移植樹は元気な新芽を吹いている。また、大木で老朽化の進んだヒチジ

ヨウ、アラカシ、クロガネモチのそれぞれは、残念ながら掘り上げ除去せざるを得なかった。今回の境内林整備中気づき、感じたことは、古いころから自然に芽生え、生長し、更新を繰り返してきた藪椿の株が驚く程多く、私が目印も打たずザッと数えたところで400本を上回る数をカウントしたことである。これは各地の社寺林の中でも有数の規模に相当すると思われる。今後、これを貴重な観光資源ととらえて今少し林床を整備し、歩き易い小径を設けるなどの工夫をすれば、参詣に訪れた善男善女も可憐極まりない椿花を楽しむ観賞することができるよう。本来、椿は群生すると様々な変種を生じ易いが、この杜の椿は殆んど一手で変化花はなく、端正な特徴をもっている。私は、今少し色違いの藪椿(例えば大洲市の雲海(白一重藪)、松前町地元の徳丸(ピンク一重藪)大三島町の鶴姫(薄色一重藪)などを植え込んでみることを夢みて目下準備中である。